

[書 評 ・ 紹 介]

平岡昭利編：

『地図で読み解く日本の地域変貌』

海青社、2008年11月

B 5 版 333頁 3,200円 [本体3,048円+税]

本書は日本全国から111カ所を選定し、旧地形図と現地形図を比較することによって地域の変貌をとらえている。解説はそれぞれの地域に深くかかわってきた研究者が行っており、本書全体で日本の地誌が語られている。旧地形図は明治期のものが多いが、地域によっては複数枚が掲載されており、理解を助ける図版も多数使用されている。また、索引が大変充実しており、多くの頁に登場する語句は日本の地域変貌のキーワードなのだと納得させられる。編者は山口地理学会の会員でもあり、これまでも古今書院の『九州 地図で読む百年』（1997年）・『中国・四国 地図で読む百年』（1999年）など、新旧地形図の比較による地域の変化をとらえた著作がある。

取り上げられている地域は都市が最も多いが、工業地域・干拓地・ニュータウン・離島など多彩である。中国・四国地方を挙げてゆくと、広島・呉・福山・岡山・児島湾干拓地・倉敷・水島工業地帯・山口・下関・鳥取・松江・高松・徳島・鳴門・松山・高知である。解説を、山口を荒木一視氏（山口大）が、下関を吉津直樹氏（下関市立大）が担当しており、両氏とも山口地理学会の会員である。

その他の取り上げた地域の一覧は次の通り。

北海道 札幌、函館、苫小牧、室蘭、余市、旭川、
富良野、稚内、帯広、釧路、標茶
東 北 仙台、盛岡、青森、八戸、秋田、八郎潟
干拓地、山形、酒田、福島、郡山、いわ
き（小名浜）
関 東 東京、八王子、多摩ニュータウン、横浜、
川崎、相模原、横須賀、三宅島、千葉、
浦安、松戸、九十九里浜、さいたま、川
口、水戸、つくば、石岡、日立、鹿島臨
海工業地域、宇都宮、前橋、高崎
中 部 名古屋、一宮、豊田、豊橋、岐阜、浜松、

静岡、甲府、長野、岡谷、軽井沢、新潟、
長岡、富山、高岡、黒部川扇状地、砺波
平野、金沢、福井

近 畿 大阪、堺、大和川、東大阪・大東、千里
丘陵、枚方、神戸、西宮、姫路、京都、
大津、奈良、天理、和歌山、津、四日市
九 州 福岡、北九州、久留米、佐賀、有明海、
長崎、佐世保、大分、熊本、宮崎、鹿児
島、桜島、那覇、沖縄、与勝諸島、南大
東島

新旧地形図の比較は地域の特性を把握するのに有効な手法で、高校の授業でもよく用いられ、大学入試センター試験など大学入試問題としても頻出である。山口県の高等学校で地理を担当する教員で副教材として作成している『山口県地理資料集』（山口県高等学校社会科教育研究会地理部会発行）でも、防府をはじめ何カ所かで旧地形図を掲載している。本書で再認識したことは、新旧地形図の対比によって、特に都市の成り立ちについて理解が深まるということだ。市街地がどのように広がり、都市の中心がどのように移動し、道路網がどのように形成されて、現在に至っているかが非常によくわかる。例えば、日本に多い城下町や港町起源の都市の地域の特性は、現在の地形図だけでは市街地化が進み十分に把握することができないが、旧地形図との対比によって容易に把握できる。

本書を新旧地形図の比較の手法を示した書物として、また地形図を通して見た日本の地誌として強く推薦したい。

（藤田 隆義）